啐啄同機



大阪市立榎本小学校
11月16日
NO、25

大切な事

以前に勤務していた学校に、水泳の日本代表を育てるための合宿に参加している児童がいました。その合宿に参加するにあたり、注意点を記した手紙をみせてもらいました。

1．大きな声であいさつや返事をしましょう。
2．集合時間など決められた時間は守りましょう。
3．指示されたことは素早く行い、だらだらした行動はとらないように。
4．他人に対して気配りや心配りができるようにしましょう。
5．チームワークを大切にし、合宿の雰囲気を悪くするような言動は控えましょう。
6．自分自身で健康管理を行い、良いコンディションを維持する。
7．意思表示をしっかりと行いましょう。

成績よりの人間関係重視が日本代表の考え方なのです。

井村雅代さん、シンクロナイズドスイミングのコーチとして有名な方です。



井村さんは、日本だけでなく世界でも指導者としての実績をあげておられます。中国に指導者として招かれ、2か月後の世界選手権で結果を出すことを要求されました。その時に、井村さんは、中国選手に以下のことを要求しました。

1，「挨拶」をする。
2，「ありがとう」を言う。
3，「笑顔」を見せる。

この3つを実践させ、見事に北京五輪で銅メダルを取りました。

かつてテレビで「日本列島吹奏楽の旅」という番組がありました。好きで見ていたのですが、活水高等学校吹奏楽部顧問の藤重佳久さんのインタビューが印象に残っています。

活水高校は、藤重さんが着任するまではコンクールにすら出場していませんでした。プロのホルン奏者だった藤重さんは、自身の技術を生徒に教えました。生徒の演奏技術はすぐに上達しました。しかし、コンクールでは勝てない日々が続きました。何が足りないのかを探るために、全国の強豪校の練習を見てまわり、共通点があることに気がつきました。

強豪校は、音楽教育よりも人間教育に力を入れている。具体的には、あいさつ、整理整頓、話し方、歩き方、姿勢、表情といったことに重きをおいて指導をしていました。そのことに気がつき、指導法を変えてから活水高校の快進撃が始まりました。

3人の話に共通するのは「あいさつ」です。子ども達に朝会で「あいさつ」についての話をしました。翌日から、あいさつをする子が増えました。榎本の子どもは素直な子が多く、可能性を感じました

榎本小学校　校長　　篠﨑　勇